

【事例発表】

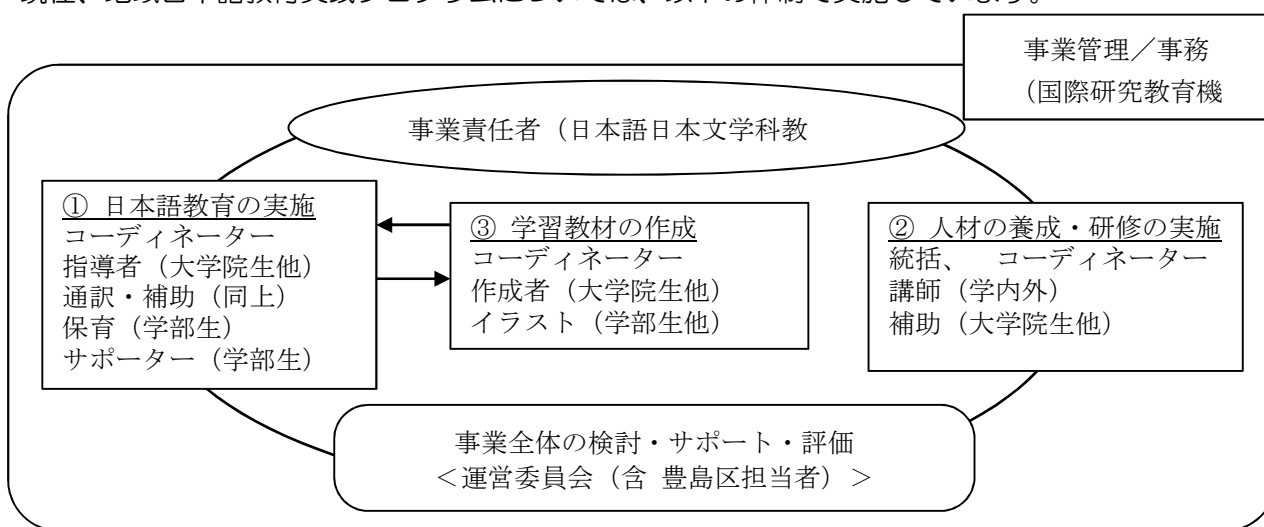
団体名：学習院大学

＜団体紹介＞

学習院大学には文学部日本語日本文学科（日本語教育系）及び人文科学研究科日本語日本文学専攻（教育系）があります。1987年に日本語教育系（主専攻）を設置し、以来30年にわたり、国内外で活躍できる日本語教育人材の育成を行ってきました。

1997年に、日本語教育における専門性と実践能力の向上、専門性・学識を活かした社会貢献を目的に、豊島区との連携の下、地域在住外国人を対象とした日本語教室を学内に設けました。2013年からは本学の国際化を担う国際研究教育機構の支援を受け、新たな教室の運営を始めています。また、2016年からは地域日本語教育に携わる方向けの研修を始めました。

現在、地域日本語教育実践プログラムについては、以下の体制で実施しています。



＜学内の2つの教室について＞

学習院大学日本語教室（火曜午後）：学部生中心

目標：地域在住・在勤・在学の外国人と同世代の日本人学生が交流し、共に考え、相互理解を深める

わくわくとしま日本語教室（土曜午前）：大学院生中心

目標：地域在住・在勤外国人が生活に必要な日本語と社会文化知識、学習管理能力を身につける

特徴：「標準的なカリキュラム案」に基づくテーマ設定、学習者の日本語学習への興味・動機の維持・促進を重視した授業設計＜初級対象＞

☆人材の専門性向上及び、教育内容・方法の改善のために次のようなことを行っています

1. 定期的な会合（コース設計、指導案・教材検討、振り返り、教材作成、等）
2. 指導案・教材・振り返り記録、等の蓄積・共有
3. 授業映像を用いた振り返り
4. 研修の実施（テーマ：授業設計の仕方、日本語能力判定の方法等）
5. 指導力評価チェックリストの活用

〔問い合わせ〕 学習院大学国際研究教育機構 [georeoff\[at\]gakushuin.ac.jp](mailto:georeoff@gakushuin.ac.jp)

学習院大学日本語日本文学科 [jpn-off\[at\]gakushuin.ac.jp](mailto:jpn-off@gakushuin.ac.jp)

事業実施概要

事業名称	ライフステージにあわせた日本語教育—地域に開かれた大学をめざして—	
地域の課題	豊島区は外国籍住民が人口の 9%を超える地域だが、日本語教室の参加者数は必ずしも伸びていない。これは、教室が在住外国人のニーズや学習条件・学習環境、「学ぶ力」のレディネス等に十分に对应していないからだと考えられ、在住外国人が主体的に日本語学習を進めることのできる環境作りが求められている。	
事業の目的	継続的・自律的な学びを促す活動・教材を開発し、ニーズや学習環境の異なり・変化に配慮した日本語教育プログラムを実施する。また、自律的な学びをテーマに研修を実施し、人材育成を通じて地域日本語教育の充実に貢献する。公共施設等の協力も得つつ教材を開発し、一般市民の日本語学習理解を深めると同時に、日本語教育を通じ、知（地）の拠点として地域に開かれた大学となることをめざす。	
事業の概要	日本語教育の実施	日本語教育のための学習教材の作成
	名称：「学ぶ力」を身に付ける日本語教室	名称：学ぶ力の育成を目指した「生活のための日本語」教材の開発
	目的：1. 外国籍住民が地域社会生活に必要な日本語と社会文化知識を身に付ける 2. 教材・活動・学習ポートフォリオを通じ、継続的・自律的な学びにつながる力を養う 対象：日本語学習歴のない外国籍住民等 人数：約 20 人（主な出身・国籍：中国） 時間：わくわく（週 1 回×2.5 時間（全 30 回） ぐんぐん（週 1 回×2.5 時間（全 20 回） 内容：生活に必要な日本語を身につけながら、日本語学習に対する動機が維持・促進できるような教室の実施。自己評価及び学習管理のツールとしての学習ポートフォリオの使用。	
	全体構成：①学習ポートフォリオ：「コースの前に」「生活の日本語とは」「セッションの後に」「このセッションで勉強すること」「教室内の目標と振り返り」「教室外の目標と振り返り」「活動の記録」で構成、②各課教材：『日本に住もう（全 22 課）』 使い方：75 時間の対面授業で用いる。各課は 2.5 時間程度で扱い、学習ポートフォリオ実施や総合的な活動等に 20 時間を費やす。	
事業の概要	日本語教育を行う人材の養成・研修の実施	
	名称：「自律的な学習を促す環境作り」を目指した研修 目的：日本語学習に対する動機や学習条件に配慮し、学ぶ力を伸ばす活動や教材を開発できる人材を育成する。 対象：近隣区域内在住等で「生活者としての外国人」に対する日本語教育に携わる方々。 時間：月 1～2 回×3 時間（全 10 回） 人数：30 人（出身：日本 27 人、中国 2 人、台湾 1 人） 内容：動機の維持・促進をはかるための活動、学ぶ力の育成方法、自律的な学習を促す教材等をテーマに研修を実施。	
成果と課題	1. 日本語教室：教室運営を通じて外国人住民の日本語教育の充実が図れた。課題は、継続的・自律的な学びにつながる力を養うことである。本年度は、学習ポートフォリオの使用の強化と学習者の動機を維持・促進するための学習内容の再構築を計画する。 2. 人材養成：研修を通じて地域日本語教育の充実が図れた。課題は、研修と実践を結びつけるための工夫が挙げられる。本年度は、受講者自身の実践を振り返り、各人の現場での新たな試みや改善につなげる機会を十分に組み込んだ研修を計画する。 3. 教材作成：復習する際に教材を見て学んだ内容を思い出しているという声があった。自律的に日本語学習を行うためのリソースとして生かされつつある。一方でじっくり読む時間が足りない、前もって教材を受け取り予習をしたいという声もあった。教材の意図の明確化を図るとともに、教室外学習と教室内学習をどう位置付けるか、検討が必要である。	
発表者から一言	研修と教材作成を中心に発表します。研修プログラム、作成教材などをご紹介します、みなさまと意見交換をしたいと思います。	